2部

現場（フィールド）から現場（フィールド）へ

社会福祉士・
精神保健福祉士
実習

OB MESSAGE

生涯つづけたい学びの日々

通信教育部社会福祉学科卒業生　**今野さき子**

はじめに

公務員として、福祉・教育行政で子育て中の親や障害をもつ子の親と携わるうちに、子どもや保護者に寄り添える福祉の専門職を一生の仕事としたいと考え、50代半ばにして大学に入り、社会福祉士の資格を取ろうと思い立ちました。仕事と親の介護が両立できるよういろいろ調べた結果、通信で学べる大学の中から、自分のペースで学べて、スクーリングも多く受けやすい環境にあった東北福祉大学通信教育部を選びました。高卒の私にとっては大学生活へのあこがれと、早期退職をして資格をとり、早く福祉の仕事がしたいという思いもありました。４年間で卒業し、社会福祉士資格を取得した後、精神保健福祉も学びたいという欲も出て３年次に再入学、精神保健福祉士も取得し結局通算６年間お世話になりました。

実習開始までの日々

実習先が決まる前は、希望どおりに決まらないことへの不安と向き合い、そして決まった後には、実習計画はこれでいいのかという自問自答、そして『課題ノート』作成においては行政で福祉を経験していたという根拠のない自信はあったもののこれで大丈夫なのだろうかと思うほど調べ上げました。しかし必死になって埋め尽くすほど書いた『課題ノート』は、今考えると国家試験勉強にもなっていたことがわかりました。事前指導のスクーリングにおいては、実習に必要な基礎知識や心構えの指導を受けました。また、実習開始までは、国家試験の勉強はいつから取り組むか、卒

業試験はいつ受けるかと悩みながらの日々でもありました。

社福・精保援助技術実習

実習は、社会福祉士が障害者支援事業所（生活介護）で１カ月、精神保健福祉士が相談支援事業所８日間と精神科病院12日間、受講させていただきました。これまで相談業務は行政で経験ありましたが、直接利用者と関わることが少なく、期待と不安からのスタートでした。

それぞれの実習指導者からは「障害を抱えていても生活する人としてみること、一緒に活動することで利用者の思いや生活の大変さ、何を望んでいるのか、それをどう実現していけるのか、どう寄り添っていくか」など利用者一人一人に向き合うことを教えていただきました。また、「知識はこれからいくらでも身につけられる。大切なことは利用者のことを真剣に考え、自分にどんな知識があればよりよい支援ができるか悩むこと」や「まったく同じ支援はない、その人にとって何がベストな支援か悩む力を養っていくこと」も教えていただきました。

たくさん指導いただいた中で一番大変だったのが自分と向き合うことでした。自分を客観視することは普段なく、嫌な自分、できない自分を無意識に避けていたような気がしました。障害者である前に生活する人としてみる目が頭ではわかっていても、どう接したらいいか、どう会話したらいいかがわからず、悩みながらの実習の日々、指導者との振り返りや指導を受け、帰校指導でのグループスーパービジョンなどにより自分を受け入れて変わることができ、自分を知ることを学びました。

『実習記録』の作成は、最初はうまく書けず時間がかかりました。実習計画どおりにならない日もあったり、利用者の前ではメモが取れなかったり、振り返りながら記録をまとめ、特に考察にかなり時間を取られました。記録は援助者にとって必要不可欠なものであり、工夫し慣れていかな

ければと思いながら作成していきました。実習指導者からのコメントも厳しく温かく、頑張ってほしいとの願いが込められており、今も時折開いて読んでは心を新たに頑張ろうという気持ちになります。

学習、レポート作成、スクーリング

仕事をしながらの学習時間の確保は、皆さんいろいろ工夫されていると思います。私の学習計画としては、スクーリングやオンデマンドを中心に、できるだけ先生方から直接学びたいと考えていました。正直教科書を読むだけでは頭に入ってこないこと、仕事と家庭と介護の合間の学習時間の確保は難しく、家から離れて勉強したい、そして別レポートがあるスクーリングはレポート作成が少なくなるので幾らか楽になるとも考えました。また、大学生活を味わいたい地元からの通学だったので、スクーリング受講するうえでは条件のよい環境でありました。

レポート作成にはかなりの時間がかかりました。『レポート課題集』の「作成のアドバイス」を参考に、教科書やスクーリングの資料などから少しずつ作成しました。ここでも考察力の低さを感じつつも、何度も修正しながら根気よく作成していきました。返却レポートに書かれている先生からのコメントは、楽しみの一つでした。

おわりに

大学生活はさまざまな職業経験をもつ複数の友との出会いから始まり、現在も続いています。在籍科が違っても、できるだけ多くのスクーリングに出席し先生方の「生」の指導を受け、学習の工夫、学習時間の確保、レポート作成のコツ、参考書など様々な情報交換、夜の懇親会などを通じ一緒に卒業しようとお互い切磋琢磨してきました。途中、震災関係で半年く

らい勉強できなかった時も、仲間からの応援メッセージなどで励まされました。

卒業後は、小学校でスクールソーシャルワーカーをしています。障害児に関わる仕事をと考えていましたが、学校という現場を選びました。学校という職場にスクールソーシャルワーカーは自分しかいないという不安はありますが、校長先生をはじめ他の先生方と、児童の教育環境や生活環境をよくするため「チーム学校」という意識をもち、日々自己研鑽を積み重ね、自分の役割を果たしていけるよう努力しているところです。

最後に、通信教育学部は目標をもった職業経験豊富な方々がたくさんおります。可能であればスクーリングに参加し、多くの仲間をつくり、仲間の話に耳を傾けて共感し、ともに学ぼうという絆、在学中だけでなく卒業後も連絡が取り合える仲間をつくり、お互い刺激し合いながら、それぞれの目標が達成されますことを願っています。

スクーリング・アンケートより（１）

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●福祉行財政と福祉計画（福祉計画法）　佐藤　英仁

・テキストだけでは把握しにくい現在の統計結果や予算等について、資料をもとに説明してくださりわかりやすかった。また、国試に向けたポイントについても話されていたため、ポイントを押さえ身に付けていきたいと思った。
・内容は難しかったが、少しは理解できた。自分の住む町の財政について調べてみたいと感じた。
・予算を学ぶにあたり、福祉以外の分野にも目を向けることでより学びが深まると感じた。
・オンデマンドではまず見ることができない教員の方の人間らしい側面が見られ、新鮮味が感じられた。

●保健医療サービス論　佐藤　英仁

・医療保険サービスの制度、医療保険制度、給付の仕組みは細かく、覚えきれないので、包括的な説明、資料をいただけて大変ありがたかった。
・病院で働いていますが、全く知らなかったことや、何が何だかわからなかった部分がやっとわかった。事務の人たちに混合診療がどうのといろいろ聞かれ、わからずＤｒに確認してくださいと言っていました。今やっと、なぜ言われていたのか理解できた。
・医療法の経緯や背景を俯瞰（ふかん）的に整理することができてよかった。学問的な観点での制度の見方が大変参考になった。今後更に深めていきたい。
・さまざまな医療制度の詳細を知ることができてよかった。診療報酬制度について、退院が早いほど料金が高くなるのは一概に悪いとは言えないが、入院が必要な患者が早く退院させられてしまう可能性を考えると、将来ソーシャルワーカーを目指す者として複雑な問題になると思った。

●社会福祉援助技術総論　佐藤　博彦

・法律をつくる際になぜ必要となったのか、時代背景を知る必要があり、時代背景を照らし合わせることで、とてもよく理解することができた。ソーシャルワークの基礎について詳しく勉強することができてよかった。
・社会福祉士の役割はとても広範囲で奥が深いと思った。世の中は少子高齢化、格差社会で、他国籍の移民も増え、問題を抱えている人は増えていくと思う。どのように解決していくか、大変な仕事であるがとても必要とされる仕事だと思った。専門性の高い分野なので常に学ぶ姿勢が大切だと思った。
・この年齢になっての学修にとても不安があったが、この年齢で、現在働いているからこその学びがあるのだと感じた。